

中学2年4組 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

指導者 井上 富美子

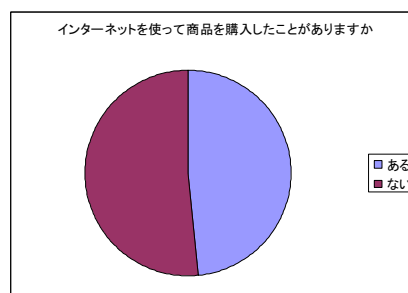
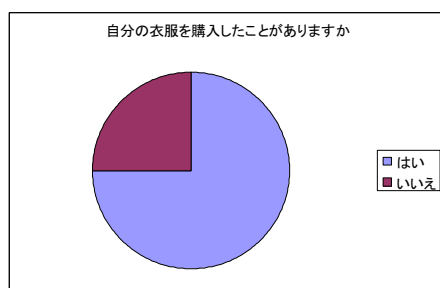
商品の選択・購入において、グループや全体での話し合い活動を取り入れ、互いの考えを聞いたり、意見を出し合ったりする学び合いを行うことは、商品の情報を収集・検討し、目的に合わせて商品選び、購入方法を決定する力を育てることに有効であったか。

1 題材名 自分に合った衣服を購入しよう ～商品の選択と購入～

2 授業の構想

(1) 「身近な消費生活と環境」の内容について、小学校では「物や金銭の使い方と買い物」や「環境に配慮した生活の工夫」を学んできた。実際に調理実習で使う食材を買い物したり、こづかい帳をつけたりして実践的に学んできている。中学1年生では「食品の選択」で食品の品質の見分け方や用途に応じた選択方法を学習した。目的、栄養、価格、調理の能率、環境への影響を考えながら、生鮮食品や加工食品などを選んで調理した。「商品の選択と購入」について生徒は体験的に学んできているが、「商品の選択」を中心に学習するのは初めてである。

衣生活について小学校では布を使った製作や手入れを中心に行ってきたが、中学校では衣服の管理・活用の面から消費生活にも視点を当てていくことが必要である。「衣生活と消費生活」について生徒にアンケートを行ったところ、衣生活については手入れや素材、着方など学びたいことが思い浮かぶが、消費生活については具体的なイメージに乏しいことが分かる。しかし、学級の7割以上の生徒が自分で衣服を購入した経験があり、5割の生徒が通信販売やインターネットを使って商品を購入した経験があると答えている。



近年、商品の購入をめぐる消費者トラブルは増えてきており、適切に商品の選択し、購入ができる力を身につけておくことが必要である。生徒のアンケートにも少数ではあるが商品の選び方や購入についての意見があった。

- ・衣服の選び方を学びたい。(生徒A)
- ・衣服を購入するときに、どのようなことに気をつけたらよいか。(生徒B)
- ・衣服を買うときどのような危険(消費者トラブル)があるのか学びたい。(生徒C)
- ・インターネットで物の購入などしたことないので、物の購入のとき気をつけることを知りたい。(生徒A)

衣生活の学習を通して、実際の生活場面で「商品の選択と購入」ができる実践力を身につくように、本題材を設定した。

(2) 「身近な消費生活と環境」については、小学5年生～中学3年生までの題材の中で次の表のように学習している。

学年	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生
題材	○生活に役立つ物を製作しよう ○野菜サラダを作ろう ○クリーン作戦を実行しよう ○快適な住まい方を考えよう	○いためる調理をしよう ○ありがとう会食をしよう	○食品を選択して調理しよう	○自分に合った衣服を購入しよう	○地域の食文化を知り、地域の食材を生かした調理をしよう
学習内容	・身近な環境とのかかわり、物の使い方の工夫 ・物や金銭の大切さ、計画的な使い方 ・身近な物の選び方、買い方	・身近な環境とのかかわり、物の使い方の工夫 ・物や金銭の大切さ、計画的な使い方 ・身近な物の選び方、買い方	・食品の選択 ・環境に配慮した消費生活の工夫と実践	・消費者の基本的な権利と責任 ・販売方法の特徴、物資 ・サービスの選択、購入及び活用	・食品の選択と購入 ・環境に配慮した消費生活の工夫と実践

本題材は、中学校2年生の家庭分野において、学習指導要領の内容C「衣生活・住生活と自立」の「衣服の選択と手入れ」、「衣生活、住生活などの生活の工夫」と、内容D「身近な消費生活と環境」の「家庭生活と消費」、「家庭生活と環境」を、組合わせて構成している。それぞれの内容が生徒の実際の生活により近くなるように、制服や日常着を教材として取り上げて、補修や洗濯の実習を行ったり、着方や購入を考えたりすることにより、学習の成果を積極的に生活に生かすことができるようにした。

まず、衣服の機能や手入れについて学習した後、衣服の着用目的、品質、手入れ方法、価格などの情報をもとに商品を選択させる。その際、学んだ知識が実践的に生かせるように実際の商品を手に取り、品質表示などから必要な情報が読み取れるようにしたい。

学習に当たっては、ペア学習やグループ学習を取り入れて互いの知識・理解を確認し合うとともに、全体での発表や意見交換を行い、情報を共有して課題解決の手がかりになるようにしたい。

これらの学習活動により、「商品の選択と購入」の知識や理解を深めながら、自己の課題を解決をしていく力、商品の情報を収集したり、さまざまな考え方を検討する思考力、目的に合わせて商品選んでいく判断力、商品を購入するための方法を探る表現力を育てることをねらいとしている。

(3) 本題材は、まず、衣服の機能、衣服の手入れや管理について学習した上で、衣服の選択と購入について考える。衣服の機能は、小学校で学んだ保健衛生的な機能に加え、社会生活上の機能について学ぶ。商品を選択する上で、衣服の機能が満たせる商品を選べるようにしたい。また、衣服の手入れでは実際に自分の制服を用いてアイロンかけやボタン付け、洗濯などの実習を行う。体験することで知識をより確かなものとし、商品を選択するときの大事な視点とさせたい。これらの学習をもとにして、「商品の選択と購入」を考える。様々な視点から商品の購入を考えることで、購入のための情報を収集・整理し、必要性を考えて商品の適切な購入ができるようにするとともに、自分たちの消費行動が他の地域の人々の生活や自然環境に与える影響を考えさせることをねらいとしている。選ぶ商品として、男女ともに着用することができ、実用性もあり、実際に自分たちが購入する機会があるソックスを取り上げた。素材、価格、生産地、購入先などが異なる条件の商品を見せて、どれを購入するかを考えさせる。これまでの学習がいかせるように、素材に天然繊維の綿や化学繊維のポリエステルを取り上げ、タグの品質表示や取り扱い絵表示などからさまざまな情報が得られるようにした。また、実際にソックスをさわらせたり、表示を見させたりして、実際に購入するときと同じような場を設定した。グループで商品の情報を収集・整理しながら、自分たちが選ぶ商品とその理由を話し合い、結果をまとめた。

本時の学習は、グループで話し合った結果を発表し、商品を選ぶ視点と考え方を学級全体で考えていく。選ぶ視点としては、デザイン、素材、価格、手触り、取り扱い方法など様々出てくると思われるが、選んだ理由を発表にすることにより、商品を選ぶときの考え方が明確になる。様々な情報の中から何を重視し、どの商品を選ぶか考えることで、自分の目的に合わせて商品を選択し、生活の中で実践できる力を身につけさせたい。

3 展開計画（全20時間 本時10／20）

次	主な学習	時	具体的な学習・内容（◇印は、学級全体の学び合いの場面）
1	衣服と社会生活とのかわりを知ろう	1	・衣服の社会生活上の機能を知り、時・場所・場合に応じた着用を考える。
		2	・個性を生かす着用を工夫する。
2	衣服の手入れをしよう	3	・衣服材料に応じた日常着の手入れと補修について知る。
		4	・制服の組成表示、取り扱い絵表示を調べる。
		5	・電気洗濯機を用いた洗濯の方法と特徴を知る。
		6	・電気洗濯機による洗濯計画を立てる。
7・8		・取り扱い絵表示を読み取り、制服の手入れ（洗濯、アイロンかけ、ボタン付け）をする。	
3	自分にあった衣服を購入しよう ～商品の選択と購入～	9	・商品の情報を収集し、情報を収集し、目的に合わせて商品を選択する。
		⑩	◇選んだ商品とその理由を発表し、意見交換を行い、商品を購入する視点を明確にする。 ・自分に合った商品を選択する。
		11	・商品の販売方法、購入方法を知る。 ・販売方法、購入方法の利点・問題点を知る。 ・目的に合った購入方法を考える。
4	消費者の権利と責任について考えよう	12	・消費者トラブルについて知る。 ・消費者の権利と責任について知り、消費者トラブルを防ぐ方法を考える。
5	資源や環境に配慮した消費生活の工夫をしよう	13	・自分の衣生活をふり返り、資源や環境に配慮した消費生活を考える。 ・日常着の計画的な活用を考える。
		14	・補修の基礎縫いを使って生活に役立つ製作を行う。
		20	・基礎縫い（まつり縫い、スナップ付け、ボタン付け、ミシン縫い等）を用いて製作を行う。

4 評価計画

次	時	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
1	1	衣生活と社会生活とのかわりに関心をもっている。	色や形・柄の効果を考えて自分らしさを表現する着方を工夫している。		衣服の社会生活上の機能がわかる。
	2				
2	3	衣服の手入れに関心をもっている。	環境に配慮した洗濯の仕方を考えている。	取り扱い絵表示等を読み取り、衣服に応じた洗濯計画を立てている。	衣服の材料や組成表示を知り、手入れの仕方がわかる。 洗剤の働き、衣服材料に応じた洗剤の種類、使用量がわかる。
	4				
	5				
	6				
	7			衣服に合ったアイロンかけやボタン付けをしている。	補修の目的と布地に適した補修方法がわかる。
	8				
3	9	情報を活用して商品を選択、購入することに関心をもっている。	情報を選択し、他の意見を取り入れたり、自分の考えを深めながら、購入する商品を選択している。	商品を選択、購入するための情報を収集・整理している。	販売方法、購入方法の利点と問題点がわかる。
	⑩				
	11				
4	12	消費者の権利と責任に関心をもっている。			消費者の権利と消費者保護基本法の趣旨がわかる。
5	13	自分の生活と環境とのかわりに関心をもっている。	環境に配慮した物資の活用を工夫している。	基礎縫いを用いて生活に役立つ製作をしている。	
	20				

5 本時の学習

(1) ねらい

商品の購入のため情報を選択し、他の意見を取り入れたり、自分の考えを深めながら、購入する商品を選択する。

(2) 展開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価 (◎は学び合いのためのはたらきかけ)
1. 前時の学習をふり返る。 2. 本時の学習課題を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 4つの商品とホワイトボードを見ながら、商品の情報とグループでの話し合いが思い出されるようにする。
情報を選択し、自分に合った商品を選ぼう。	
<ul style="list-style-type: none"> グループで発表のための打ち合わせをする。 グループで選んだ商品を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 同じ商品を選んだグループごとに、グループで話し合った結果を前で発表する。 自分たちの意見と比較して、他のグループへの質問・意見を言う。 購入の視点とその考え方を知る。 (素材、価格、手触り、取り扱いなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ホワイトボードを見ながら、グループで選んだ商品とその理由を確かめるようにする。 発表するときの留意点と聞くときの観点を確認する。 ◎結果をまとめたホワイトボードを示しながら、選んだ理由も分かるように話させる。同じ商品を選んでも理由が異なる場合は、理由が明確にできるように分けて掲示する。 ◎どのような情報をもとに考えたかが伝わるようにする。 発表し終わったグループのホワイトボードを黒板に貼り、結果を比較できるようにする。 ◎商品の購入の視点をまとめ、どのような考え方で商品を選んでいるのかを明確にする。
4. 班で話し合ったことや発表をを参考にして、自分が購入したい商品を決める。 <ul style="list-style-type: none"> 学習したことをもとに自分の考えをワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の班の考えを聞き、自分たちの考えと比較しながら、自分に合ったよりよい商品の選べるようにしたい。
<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習についてふり返り、成果をまとめる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center;">評価の観点 (生活を工夫し創造する能力)</p> <p>情報を選択し、他の意見を取り入れたり、自分の考えを深めながら、購入する商品を選択している。</p> <p style="text-align: center;">【評価方法 観察・ワークシート】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 選んだ理由を書くことにより、商品を選択する上で、自分が重視している視点を明確にさせる。 本時の学習のねらいが達成できたかワークシートで自己評価する。